

# 第 187 回ペン川柳（お題＝鍵） 令和 1 年 11 月 26 日

世話人：塚田 實（<sup>だ</sup> <sup>だ</sup> 拿々）

（\*印は今月の互選五句、\*は最優秀句）

1. やれ大事昔は鍵で今カード （損得＝細谷） → 1 票  
「やれ」の掛け声が作者の嘆きを表しているようです。素直にその通りですが、今一つヒネリが欲しいところです。
- \* 2. 印象派構図の鍵はジャポニズム （井波＝稲宮） → 4 票  
元句は「鍵に」でしたが、「鍵は」の方が流れも説得力もあるとのことで替えました。作者は墨田区で募集した川柳からこの句を思いついたそうです。確かに印象派絵画は浮世絵の大胆な構図にかなり影響されたようです。
3. 大川で鍵屋は続く十五代 （拿々＝塚田） → 0 票  
作者の意図が良く伝わらなかったようです。「大川」は「隅田川」。「鍵屋」は「鍵屋・玉屋」で有名な花火師です。玉屋は途絶えましたが、鍵屋は現在十五代目で、今も活躍しています。場の理解を得られなかったのは残念です。
- \* 4. 鍵っ子は老いて今度は名札下げ （明迷＝八木） → 4 票  
項番 22 でも「鍵っ子」を扱った川柳がありましたが、こちらの方が場の支持を得ました。自虐的でちょっと寂しいなどの評もありましたが、情景が目浮かぶようです。
5. 鍵穴に風穴あけた顔認証 （火酒＝三春） → 1 票  
分かるようで分からないとの意見もあり票が伸びませんでした。ちょっとミステリアスな世界を想像しますね。「穴」「穴」と続けたところに、面白みがありますね。
6. 鍵がカギ耽美の世界で文豪に （晃二＝安藤） → 1 票  
谷崎潤一郎の『鍵』に関する川柳は、本句を含めて 3 点にのぼりました。『鍵』は谷崎晩年の傑作で、既に文豪としての地位を確立していたようです。性欲と三角関係は耽美の世界を想像させますね。
7. 鍵の束妖しくねむる裏の顔 （酔雅＝西川） → 1 票  
元句は「怪しく寝むる」でしたが、「妖しく」の方が雰囲気が出、「寝むる」もひらかなの「ねむる」の方が一層情景に深みが出るとの評で、少し替えました。
8. 驚いたカバンが安い鍵よりも （だし＝大野） → 1 票  
カバンに付いている鍵がよっぽど高かったのでしょうか。鍵だけがブランド品だというのもありそうです。
9. 鍵の束九割までは認知せず （酔雅＝西川） → 1 票  
「認知せず」がちょっと固くなる感じがします。また、「何の鍵」かもよく分からないとの評でした。でも色んな鍵を一杯持っていて、さてこれは何の鍵だったのかは、よくあることです。

10. この鍵で閉じた心を開きたい (安兵衛＝山縣) → 2票  
少し理屈っぽくて、真面目な感じがするとの評でした。中下句を「開いた心がまた閉じて」とする方が面白みが増すとの意見もありました。
- \* 11. 口に鍵言いつつ漏らすあの秘密 (不言＝岩崎) → 3票  
よくある話ですね。「ここだけの話」は拡散してくれと言わんばかりです。酒の上での舌禍事件も沢山あったと思います。作者の柳号が「不言」というのも笑わせませぬ。
12. 亡き妻のダンスに残る謎の鍵 (火酒＝三春) → 2票  
妻のダンスには触れていなかったのでしょうか。そこで見つけた謎の鍵でご主人の戸惑う姿が目に見えるようです。可哀そう過ぎるとの男の同情で2票どまりとなりました。
- \* 13. 合鍵はあなただけよで通い詰め (拿々＝塚田) → 5票  
これは作者の自己体験ではないと断りを入れても信じてもらえるでしょうか。話はバー通いから、酒の飲めない「スーダラ節」の植木等、更にはその弟子小松正夫まで果てしなく拡散してゆきました。
14. 部屋の鍵渡され気になるその重さ (我々好＝浜田) → 0票  
元句は「渡され重さが気にかかり」でした。しかし変更後の句の方が、部屋の鍵を渡されたは良いが、急にその精神的重さが気になる感じが出るとの評でした。妙に実感が出ているのが気になります。
15. ミステリー隠された鍵盗み読み (不言＝岩崎) → 0票  
中句は「隠された鍵を」でしたが、字余りだったので「を」は削除しました。もしくは「隠した鍵を」でも良いかなとの意見。ミステリーではつつい最後の謎解きを見たくりますね。内田康夫や西村京太郎が話題になりました。
16. どうするの鍵は金利と下げ過ぎて (晃二＝安藤) → 1票  
下五は「下げ過ぎた」でしたが、「下げ過ぎて」に変えました。また中七の「鍵は金利と」の「と」で良いのかも議論になりましたが、このままとしました。話はインフレターゲット論から地銀の経営問題まで話題は尽きませんでした。
17. マイカーにマイキー閉じ込めマイったな (明迷＝八木) → 1票  
「マイ」の繰り返し面白いですね。1票しか入りませんでした。作者の「たまには木久扇みたいなバカバカしいものを」とのコメントを紹介したら場は大笑い。「座布団一枚！」との声がかかりました。
18. 鍵かけたバレバレ通じ衣 (ころも) 脱ぐ (井波＝稲宮) → 1票  
これも谷崎の『鍵』からの発想です。ヒロイン「郁子」が浴室で全裸で倒れたシーンが浮かんできます。鍵も分かる場所にそっと置いておいたに違いありません。谷崎の仕掛けにはまっていきそうです。
19. 大切な鍵入れ箱の鍵どこだ (損得＝細谷) → 2票  
ストレートな表現だが、もう少しヒネリとユーモアが欲しい。でもこのような話は年齢を重ねるとありそうですね。

- \* 20. 鍵探し今日も半日忙しい (安兵衛=山縣) → 2票  
 これもありそうな話です。鍵だけではなくて、メガネを探すのに半日かかったとの話もありました。色んなものを探しまくるのは、加齢により仕方ないですね。慌てず探しましょう。
21. 谷崎の「鍵」を見るよな夢心地 (だし=大野) → 1票  
 谷崎の三句目です。夢心地で腹上死させるのでしょうか。怖いですね。皆さんそれだけ『鍵』が印象的だったのでしょうか。
22. 鍵っ子は古稀になっても独居老 (我々好=浜田) → 1票  
 「鍵っ子」の2句目。これも少し侘しいですね。独居老でも人生を生き延びたのだから、友人がいるのではないのでしょうか。ペンクラブ入会を勧めましょう。懇親会は大賑わいです。

出席7名 = 西川武彦(酔雅)、浜田道雄(我々好)、稲宮健一(井波)、山縣正靖(安兵衛)、安藤晃二(晃二)、三春(火酒)、塚田實(拿々)

欠席投句4名 = 大野ただし(だし)、岩崎洋一郎(不言)、細谷博(損得)、八木信男(明迷)

欠席2名 = 平尾富男(酔深)、松谷隆(零門)

12月以降のお題： 12月23日(月)「餌・えさ・エサ」  
 1月27日(月)「燃える・燃やす」  
 2月24日(月)「火」  
 3月23日(月)「水」  
 4月27日(月)「歩く・歩む」  
 5月25日(月)「風」  
 6月22日(月)「傘」